

III. 2027 年度 研究指導担当教員及び研究指導領域

柔道整復学学位プログラム 博士前期課程

研究指導担当教員の表記内容		
★★	研究指導教員	研究指導を担当することができる
★	研究指導補助教員	研究指導教員とともに研究指導ができる

【注意事項】

出願前に必ずご自身の希望する研究指導教員と連絡を取り、担当教員とご自身の考えている研究内容を十分にご相談して下さい。事前の連絡を取らずに出願することがないようにして下さい。

教員検索（大学HP 教員情報データベース）		研究者検索（国立研究開発法人科学技術振興機構）	
-----------------------	---	-------------------------	---

柔道整復学学位プログラム

（コース・50 音順）

教員名	研究指導領域
★★ 教授 伊藤 譲 博士（医学）	研究分野：柔道整復学
	研究内容のキーワード：運動器外傷、スポーツ外傷、運動器疾患の評価、コンディショニングと外傷予防、柔道整復師養成教育 柔道整復の日常業務（施術）に関する疑問をもとに、以下のような課題について検討します。 ① 手技療法、物理療法、運動療法の効果について ② 筋や靭帯等の超音波観察装置を用いた評価について ③ 生成AIを活用した教育手法の開発 これまでに、当研究室で修士号を取得した院生の研究テーマは以下の通りです。 ① 大学男子ラグビー選手を対象とした下肢の外傷・障害既往歴に関する検討 ② 高周波通電刺激が筋硬度と筋収縮特性に及ぼす影響 ③ 大学男女サッカー選手の傷害既往歴に基づく下肢の身体的特徴に関する検討 ④ 足関節への急激な内反刺激による腓骨筋の反応 ⑤ シューレースの締め方が静止立位時の重心動揺、歩行と片脚幅跳び跳躍距離に及ぼす影響 ⑥ 徒手およびストレス負荷装置による足関節前方引出し時の超音波画像診断装置による評価－足関節捻挫に対する前方引出しテストの信頼性向上を目標として－ ⑦ 脱臼・骨折シミュレーターを用いたコレス骨折の徒手整復に対する教育手法の検討 ⑧ 投法の違いが前腕屈筋群の筋硬度に及ぼす影響－柔道整復師による投球障害肘予防法の確立を目指して－ ⑨ 温熱療法と電気療法の併用が運動後の筋に及ぼす影響について ⑩ リトルリーグ選手の肘関節外反トルクの多面的検討－柔道整復師による投球障害肘予防を見据えて－このように様々な研究に取り組んでいます。
★★ 教授 稲川 郁子 博士（教育学）	研究分野：柔道整復学、教育学、柔道
	研究内容のキーワード：柔道整復師、教育、柔道 柔道整復師と教育のあり方をめぐる以下のような研究課題について、特に質的手法を用いて検討します。 ① 柔道整復師の熟達化 ② 柔道整復師による一回起性の高い臨床経験のアーカイブ化 ③ 柔道整復師養成施設と教育 ④ 嘉納思想と柔道整復師

教員名	研究指導領域
<p>★★ 准教授 上倉 將太 博士（スポーツ健康科学）</p>	<p>研究分野：トレーニング科学、アスレティックリハビリテーション</p> <p>研究内容のキーワード：アスレティックリハビリテーション、運動療法、スポーツ理学療法、スポーツ外傷・障害の予防、コンディショニング</p> <p>運動器の外傷・障害に対して、その疾病構造を理解し、臨床推論を基に病態を改善する運動療法とそれらの障害予防について検討する。</p> <p>主な研究調査領域として、外傷・障害に対する治療選択について検討する。対象が高齢者の場合は、介護予防を目的とした身体機能改善について、若年者においては健康増進を中心に調査する。また、アスリートに対して、球技選手を中心としたコンディションチェック方法の確立と積極的なりカバー方法について、さらには下肢の障害予防を中心に研究を行う。</p>
<p>★★ 講師 小林 喜之 博士（医学）</p>	<p>研究分野：複合領域</p> <p>研究内容のキーワード：柔道整復学、外傷学、動作分析</p> <p>運動器の外傷や障害に対する病態の解明及び受傷機転の解析、治療法について研究していく。</p> <p>特に形態・機能解剖に基づく動作解析、対象がアスリートや高齢者であれば一般的な外傷や障害との比較検討し、予防的観点も踏まえて研究する。また、柔道整復学領域の専門的知識と臨床技術を駆使して治療方法について検証していく事で、健康保持・増進や身体機能改善などの効果が結果として現代社会に良い方向へと導けるよう検討していく。</p>
<p>★★ 教授 小山 浩司 博士（体育科学）</p>	<p>研究分野：柔道整復学、スポーツ医学</p> <p>研究内容のキーワード：超音波画像装置、運動器疾患、姿勢</p> <p>柔道整復術の有効性を科学的手法で検証し、エビデンスに基づいた施術アプローチの確立を目指します。超音波画像装置を活用して施術による身体の変化を可視化し、その効果を客観的に検証します。</p> <p>現在、主に以下の研究に取り組んでいます。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 柔道整復施術前後における組織変化の比較研究 ② 運動器疾患に対する予防的アプローチに関する研究
<p>★★ 教授 白石 聖 博士（医学）</p>	<p>研究分野：運動器測定評価学、衛生学公衆衛生学</p> <p>研究内容のキーワード：骨格筋循環、関節アライメント、スポーツ傷害、傷害予防、ヘルスプロモーション</p> <p>健康の保持・増進に資することを目的とし、加齢による運動器機能の低下や外傷や障害の発生に関する構造的・機能的要因について研究を行う。修士課程では臨床から生まれた研究課題など比較的広い範囲を対象として科学的な分析を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 骨格筋循環と筋機能低下および外傷・障害発生に関する研究 ② 関節アライメントと運動機能低下および外傷・障害発生に関する研究 ③ 健康寿命延伸のための歩行能力の保持・向上に関する研究
<p>★★ 教授 橋本 俊彦 博士（医学）</p>	<p>研究分野：スポーツ医学、整形外科学、運動学</p> <p>研究内容のキーワード：スポーツ外傷、要因分析、受傷機転の解析</p> <p>スポーツ外傷は、環境的要因、身体的要因、心理的背景などの発生要因が複合的に誘因となり、受傷時の身体部位に生じる衝撃によって病態が決定される。この一連の過程に関連する以下の項目を研究テーマとする。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① スポーツ外傷の発生する要因分析 ② スポーツ外傷における受傷機転の解析 ③ スポーツ外傷の予防
<p>★ 教授 服部 辰広 修士（保健医療学）</p>	<p>研究分野：運動器外傷学</p> <p>研究内容のキーワード：柔道整復術、外傷・障害調査</p> <p>柔道整復学の構築に関する研究</p> <p>柔道整復師が行う治療（整復法・固定法・後療法）は経験に基づくことが多く、科学的根拠が必ずしも明確ではありません。伝承的に受け継がれる手技・手法について、科学的根拠に基づき以下の調査・研究を実践し、柔道整復学の構築について検討します。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 外傷・障害発生に関する疫学調査 ② 柔道整復師が行う治療法の科学的検証

教員名	研究指導領域
<p>★★★ 准教授 樋口 毅史 博士（医学）</p>	<p>研究分野：柔道整復術、パラスポーツ、障がいを持つ人のコンディショニングおよびトレーニング</p> <p>研究内容のキーワード：柔道整復、運動器外傷学、重心動揺、パラスポーツ</p> <p>① 柔道整復術が社会におよぼす影響について、施術方法、施術内容、施術料金等に関する検討 ② スポーツ現場における柔道整復師の役割・将来の可能性に関する検討。特に障がい者のスポーツに対する柔道整復師の役割について ③ 運動器損傷・障害の対処とスポーツ医および他の医療関連職種との連携に関する検討 ④ 小児から高齢者に対する外傷予防に関する検討。特に動的重心動揺特性について基礎的な研究</p>
<p>★★★ 教授 松田 康宏 博士（工学）</p>	<p>研究分野：生体医工学</p> <p>研究内容のキーワード：血流計測、手技療法、物理療法</p> <p>柔道整復師が行う様々な施術によって筋血流が変化するとされている。しかし、それらの研究は他の医学分野に対して立ち遅れ、科学的な根拠に基づいた評価方法がまだ確立されていない。そのことから、柔道整復師が行う徒手的に行う手技療法やストレッチング、医療機器を使用した物理療法などの治療法が筋肉血流にどのような影響を及ぼすのかを明らかにするための研究を進めていく。</p>
<p>★★★ 教授 渡邊 学 博士（体育科学）</p>	<p>研究分野：アスレティックリハビリテーション、トレーニング科学</p> <p>研究内容のキーワード：スポーツ外傷・障害、障害予防、身体の構造、アライメント、身体動作</p> <p>運動器の外傷と障害を研究テーマとする。 多様化する対象者の病態を理解し人々を支援する専門領域として、障害予防におけるアライメント評価とトレーニング方法に関する領域を研究する。 研究の実施は、身体の構造とアライメント、身体動作の3つを基盤とする考えを軸とし、臨床に直結した研究を進める。また、柔道整復師における高度な専門知識と臨床技能の知見を深め、臨床で生じる疑問に対して、その現象を解明することを研究課題として検討する。</p>